

## ●2016 年度REPA国内再生可能エネルギー施設視察(2016-11-22)

11月18日(金)～19(土)にかけて、千葉県大多喜町老川小学校(廃校)で展開されている新型風車、水熱発電装置研究設備の見学、大多喜町営の小水力発電設備、及び山武市での丸太加温器稼働状況の視察をしました。

一日目は、元千葉大学の佐藤健吉先生が廃校を研修型体験設備に改装し「efco プロジェクト」として地域活性化を展開している老川小学校を見学しました。体育館は研究基地として利用し、新型風車の開発や空水熱発電装置の実証試験が行なわれていました。風車を「メディア」として活用する言葉が印象的でした。もう一か所は、面白峡発電所見学で、かつて東京電力老川発電所(大正15年～昭和35年)があった場所に、平成26年町営発電所として再建設された最大出力130kWの小水力発電所です。当導水設備は元々大多喜町の水道設備として使用しているため、水利権の問題もなく、余剰水を上手に利用してFIT発電をしていました。

二日目は林野庁/環境省事業「木質バイオマスエネルギーを活用したモデル地域づくり推進事業」の成果(代表 元千葉大 中込教授PJ)、有野実苑オートキャンプ場(千葉県山武市)の湯場水の加温に使われている温水型丸太加温器(熱媒体としての温水供給)の稼働状況並びに、緑海園芸(千葉県山武市)花卉農家(シクラメン11月、カーネーション3月)のハウスの暖房に使われている温風型丸太加温器(ハウス内の空気を加温して温風として供給)の設置・稼働状況の見学をしました。隣地残材、間伐材、価値の低下した溝腐病の山武杉をバイオマスエネルギーとして活用し、一日で丸太約100kg～200kg投入し、化石燃料の節約が行われております。



小学校体育館を利用した  
研究基地内の新型風車



大多喜町 町営  
面白峡発電所(小水力)



緑海園芸・花卉農家の  
温風型丸太加温器

## ●インドネシア ロンボク島セリウエ村の水・衛生環境改善インタビュー (2016-11-24)

この漁村はやっと電気が敷かれた程度で、生活用水、ガス燃料は遠い町から購入しなければなりません。雨季は雨水を飲み、乾季は飲料水を購入しています。

今回(2016年11月24日)村の衛生士、助産婦に話を伺う機会を得ました。村民は約350人程度ですが、年に10人に5人の割合で下痢をし、薬をもらっており、5人のうち2人程度が重傷で離れた病院に行き、症状によっては2~3日入院しています。これについて特に対策は取られておらず、手洗いの習慣は全くありません。トイレの普及率は10%程度で、あとは屋外で用を済ましています。まずは安心・安全・安定した飲料水を提供し、し尿等はメタン発酵等によりエネルギー回収し、水、エネルギーの自立を図らねばなりません。同時に水・衛生教育も必要です。現在これら情報をもとに、地元で協力出来ればと計画を進めています。

当協会は現在インドネシア ロンボク島 SERIWE 村での海藻加工PJ、ジャワ島 Tangsi Jaya 村でのコーヒー農園PJを進めております。



ロンボック島 セリウエ村の位置



セリウエ村の日々の生活



インタビュー風景:右から漁業組合長、村の衛生士、助産婦



雨水溜め(生活用水・飲料水)



雨水の集水(雨樋より集水)



購入している飲料水